

平成26年度事業報告書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

学校法人 上宮学園

I 法人の概要

1. 建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか 120 年であるが、その 120 年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ 澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ巢立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようですが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよしていて、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものです。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味です。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、120年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2. 法人の沿革

上宮高等学校は、明治 23 年（1890）浄土宗を母胎として創立された。以来 120 年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い

歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

- 明治 23 年 (1890 年) 大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く
- 明治 34 年 (1901 年) 学制変更により修業年限 4 年を 5 年に変更
- 明治 39 年 (1906 年) 中学校と同等の認定
- 明治 45 年 (1912 年) 財団法人上宮中学校設立許可
- 昭和 4 年 (1929 年) 鉄筋本館竣工
- 昭和 10 年 (1935 年) 定員 1250 名認可 鉄筋新校舎の建設案成る
- 昭和 14 年 (1939 年) 新校舎 (現 2・3・4 号館) 竣工
- 昭和 22 年 (1947 年) 新制上宮中学校発足
- 昭和 23 年 (1948 年) 新制上宮高等学校発足
- 昭和 26 年 (1951 年) 学校法人上宮学園へ組織変更認可
- 昭和 36 年 (1961 年) 校祖 750 年遠忌式
- 昭和 38 年 (1963 年) 高等学校志願者 5259 名に達す 5 号館竣工
- 昭和 42 年 (1967 年) 中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工
- 昭和 44 年 (1969 年) 太子町校舎高 1 授業開始
- 昭和 49 年 (1974 年) 高 2 2 コース制実施
- 昭和 54 年 (1979 年) 太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式
- 昭和 56 年 (1981 年) 総合体育館竣工式 90 周年記念式
- 昭和 59 年 (1984 年) 上宮高等学校 6 号館竣工
- 昭和 60 年 (1985 年) 上宮中学校復活開校 (於、太子町)
上宮中学校体育館竣工
太子町学舎体育館竣工
- 昭和 63 年 (1988 年) 上宮高等学校太子町学舎開設
- 平成 1 年 (1989 年) 上宮高等学校太子町学舎校舎竣工
- 平成 2 年 (1990 年) 創立 100 周年記念式典
- 平成 3 年 (1991 年) 上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立
- 平成 5 年 (1993 年) 上宮中学校が上宮太子中学校へ変更
上宮中学校開校 (於、天王寺)
上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝
- 平成 22 年 (2010 年) 上宮学園創立 120 周年記念式典
- 平成 23 年 (2011 年) 校祖 800 年大遠忌
上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化
- 平成 24 年 (2012 年) 上宮太子高等学校男女共学化
- 平成 26 年 (2014 年) 上宮高等学校 3 年 平岡卓
冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典

3. 設置学校（所在地・コース等）

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
全日制 普通科 3カ年特進コース・3カ年総合進学コース

iii 上宮中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
特進コース・アップコース

iv 上宮太子中学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
特進コース・総合進学コース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮中学校・高等学校	47,934	22,906
上宮太子中学校・高等学校	30,338	12,436
合 計	78,272	35,342

5. 入学定員

名 称	学則定員（各3学年合計）
上宮高等学校	2,520
上宮太子高等学校	840
上宮中学校	480
上宮太子中学校	240
合 計	4,080

6. 生徒数・学級数

名 称	学年	生 徒 数	学 級 数
上宮高等学校	1年	703	19
	2年	712	21
	3年	698	20
上宮太子高等学校	1年	252	7
	2年	211	6
	3年	246	7
上宮中学校	1年	111	3
	2年	102	3
	3年	109	3
上宮太子中学校	1年	52	2
	2年	44	2
	3年	56	2
合 計		3,296	95

7. 役員・評議員

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事7名（うち、理事長1名、理事6名）

監事2名

理事長 安井良道 理事 田中裕史（上宮中学校高等学校長）
 齊藤善之（上宮太子中学校高等学校長）
 山田隆章（法人事務局長）
 末吉友一（評議員互選）
 田中信道（浄土宗僧侶）
 鶴野重雄（浄土宗・知恩院責任役員）

監 事 藤並光憲・小笹憲雄

ii 評議員（定員15名）

評議員15名（うち、理事兼任7名）

末吉友一（学識経験者） 神田眞晃（浄土宗僧侶） 川中光教（浄土宗僧侶）
 水谷川源昇（学識経験者） 横倉廉幸（卒業生） 山縣真平（法人職員）
 寺澤久弥（学識経験者） 松井保（法人職員） 原田和成（法人職員）

8. 教職員

教職員数	専任教員	非常勤教員	事務職員	計
上宮高等学校	99	68	23	190
上宮太子高等学校	36	24	6	66
上宮中学校	23	8	1	32
上宮太子中学校	15	5	1	21
合計	173	105	31	309

II 事業の概要

平成25年5月より安井良道理事長・学園長が就任され、学園の再生、発展向上のために「三本の柱」を眼目にして取り組んでいくことになった。一は教育力の向上である。本学園の建学の精神を礎として教育力の向上を目指し将来に向けて有為な人材を育成することである。同時に教職員一丸となって互いの指導力を高めあうことであり、教科担当・担任・生活指導・進路指導・入試対策・或いは部顧問として切磋琢磨して研究工夫を重ね、綿密な連絡と計画を建てて一人ずつの生徒の学力向上のために全力をつくすことである。

二は健全な財政を築くことである。学園は創立120有余年の歴史と伝統を基盤としての経済力の安定である。上宮太子中・高等学校では完了したが、上宮中・高等学校は平成26年耐震診断をうける。本館（1号館）・2・3・4号館は重厚な建物ではあるが、築70年以上過ぎ診断料と共に多大な新築建造費が予想される。そうした中で、教職員には安定、安寧の生活費と戦意喪失なきよう安心感を与えなければならない。三は民主的な運営である。まず生徒が喜んで本学園に入学してよかったという学ぶ喜びに気づかせているか。管理職と教職員の意志の疎通を欠いていないか。職員会議が民主的に運営され、自己啓発の場となっているか。保護者・同窓会・教育後援会等、学園との関係が両立しているか。生徒と担任又は授業担当者や部顧問との関係が円滑かつ信頼や尊敬の念で結ばれ、体罰やいじめについてその温床の絶無を期することが大切であるという基本精神「三本の柱」を通じ学園の事業運営は進められていくことになる。

1. 法人

i 理事会・評議員会

平成26年度 第1回理事・評議員会

日 時 平成26年5月29日（木） 理事会：午後1時

評議員会：午後1時30分

場 所 理事会：上宮中学校高等学校 法人理事室

評議員会：上宮中学校高等学校 北応接室

大阪市天王寺区上宮町3番16号 TEL. 06-6771-5701

議 題

- 議案第1号 平成25年度事業報告について
- 議案第2号 平成25年度決算（案）について
- 議案第3号 平成26年度予算（案）について
- 議案第4号 上宮中学校募集定員変更について

平成26年度 第2回理事・評議員会

日 時 平成26年12月22日（月） 理事会：午後2時
評議員会：午後2時30分

場 所 理事会：上宮中学校高等学校 法人理事室
評議員会：上宮中学校高等学校 北応接室
大阪市天王寺区上宮町3番16号 TEL.06-6771-5701

議 題

- 議案第1号 平成26年度中間報告（財務面・教務面）について
- 議案第2号 上宮太子高校学則（カリキュラム）変更について
- 議案第3号 その他について
- 上宮中高等学校耐震診断報告について
- 上宮中高等学校体育振興協力会改変について

平成26年度 第3回理事・評議員会

日 時 平成27年3月27日（金） 理事会：午後2時
評議員会：午後2時30分

場 所 理事会：上宮中学校高等学校 法人理事室
評議員会：上宮中学校高等学校 北応接室
大阪市天王寺区上宮町3番16号 TEL.06-6771-5701

議 題

- 議案第1号 平成27年度事業計画について
- 議案第2号 平成27年度予算原案について
- 議案第3号 上宮中学校高等学校・上宮太子中学校高等学校の近況報告について
- 議案第4号 平成26年度補正予算案について
- 議案第5号 その他について
- 耐震対策委員会報告について
- 上宮中高等学校体育振興協力会改変について
- 議案第6号 理事長職務代理選任について
- 議案第7号 上宮高校学則（カリキュラム）変更について

2 上宮高等学校

i 執行部関係【上宮中学共】（平成 26 年度）

校長 田中裕史
高校教頭 山縣真平
中高一貫教頭 殿井鉄夫
高校教務部長 栗栖有文

中学教務部長 末金和夫
生活指導部長 水谷善仁
進路指導部長 畑中 広
入試対策部長 相本秀彦

ii 広報関係

① 学校説明会

入学希望者を対象に 9 月から 12 月にかけて、月に一度、計 4 回の説明会を実施している。参加者数は増えているのだが、説明会のあり方について考えなければならない時期に来ている。問題点もいくつか考えられるので、次に述べてみる。

まずは説明会の時間の設定である。土曜日の午後 3 時から 5 時という時間をできれば 2 時から 4 時に実施したい。中途半端な午後 3 時からの説明会の実施はあくまでもこちらの都合である。また説明内容も 1 時間が妥当である。他校の説明会と比べれば明らかに長い。配布物に関しては同窓会誌も配布したが、今年度は希望者だけに配布することを考えている。

相談コーナーの担当者はすみやかにブースに着席して対応していただきたい。

ブースがあるにもかかわらず、担当者がいないことがよくある。

② 塾対象説明会

従来は北会場、南会場と同時期に 2 回の説明会を実施してきたが、ここ数年はシェラトン都ホテル大阪で 7 月第 2 金曜日に一度だけ実施している。懇親会は実施せず、説明会終了後に個別相談コーナーを設けて対応している。説明会の時間が少し長いという声があり、調整に苦慮している。

③ 私学展

毎年多数の来場者が見込まれる中で、上宮中学校・高等学校のブースを訪れる人数は共学になって増加の一途をたどっている。説明のブースに来て、一通りの話を一人ひとりにしていくのはロスが多いので、昨今は別会場にて上宮の概略を聞いてから、希望者はブースに来てもらうという方式を取っている。比較的スムーズに対応できるようになったと思う。ただ毎年、開催時期が夏のお盆であり、スタッフが揃わないことで常に困っている。他校のスタッフを見てみると 20 人～30 人体制で臨むのが普通になっている。宗門関係の学校において開催時期がお盆であるというのは辛い。

④ 特筆すべき点

高校入試も決して楽観視できない状況である。共学とアクセスと制服とに助けられて集まっているといっても過言ではない。専願者の減少傾向（特にパワー、英数）、大阪府の就学支援が今後どうなるかわからないことを考え、広報のあり方を再度、検討しなければならない。

iii 進路関係

1. 大学等合格率について

平成 26 年度共学 2 期卒業生は、昨年度の 917 人から 698 人に落ち着いた。
学年全体の現役での合格率は 87.2%（昨年は 85.5%、一昨年 83.9%）と、2 年連続で上昇し、全てのコースで文系・理系とも現役決定率が上がった。

国公立型コース（パワー・英数・特進）の平均合格率は 77.9%（前年 73.0%）、私立型コース（プレップ・一貫プレップ）は 87.8%（前年 84.9%）。技能プレップコースは 100%（前年 90.2%）。また、文系・理系別では、文系平均が 88.2%（前年 87.8%）、理系が 76.8%（前年 67.7%）であった。

2. 大学別合格者数について（4 年制大学・短期大学・専門学校）

①国公立大学合格者数は現浪合わせて 41 名（昨年は 39 名、一昨年 18 名）と、これも 2 年連続で増えた。大阪大学 2 名（-1）・神戸大学 3 名（+1）、京都大学は 0 になった

（-2）が、大阪市立大・府立大合格者数合計は昨年の 2 名から 9 名へと増加した。また、奈良女子大学の初の合格者が 3 名出た。

*本校は、国公立大学（センター試験 5 教科 7 科目型）を受験する生徒の数自体が増えていない。今後、国公立大学合格者数を増やすためには、まずは受験できる生徒の総数を増やすことが必要である。

（H25 年度 94 名、H26 年度 129 名、H27 年度 106 名）

②私立大学合格者は、難関大学での合格者数の伸びが顕著である。昨年に比して卒業生数が 219 名に減少したにもかかわらず、合格者数・合格率共に伸びており、共学 2 期生はよく健闘したと言える。現役生徒だけの大学別合格者ベストは以下の通り。（ ）内は昨年度の現役合格者数。

太字は合格者が単純増加した大学。数字はすべて大学別合格者の実人数である。

現役生徒の合格率（昨年度）*指定校制推薦合格者を含む

1 位：近畿大学 100 名（93 名）	51.5%（34.7%）
2 位：関西大学 57 名（46 名）	37.7%（28.4%）
3 位：龍谷大学 51 名（45 名）	57.3%（44.1%）
4 位：摂南大学 33 名（64 名）	47.1%（48.1%）
5 位：桃山学院大学 33 名（47 名）	86.8%（77.0%）
6 位：大阪経済大学 30 名（37 名）	61.2%（40.2%）
7 位：京都産業大学 27 名（16 名）	51.9%（29.6%）
8 位：立命館大学 21 名（18 名）	42.9%（36.0%）
8 位：関西外国語大学 21 名（14 名）	60.0%（32.6%）
10 位：同志社大学 19 名（14 名）	37.3%（31.8%）
：甲南大学 19 名（12 名）	52.8%（26.1%）
12 位：甲南女子大学 17 名（16 名）	77.3%（76.2%）
13 位：関西学院大学 14 名（14 名）	35.9%（27.5%）

以下略

*上記大学の指定校制推薦入試での合格者を含む、現役生徒の「合格率」を昨年度と比較すると、摂南大学を除く全ての大学でアップしており、本校にとって大変喜ばしい結果となった。

3. その他進路状況について

①新たな高大連携締結はなく、連携大学は現在 16 大学に落ち着き、昨年度の連携大学全体の指定校推薦枠は 241 枠で、昨年より 3 名増加した。

(内訳：摂南大学 5 名増、大阪電気通信大学 1 名増。龍谷大学 2 名減、近畿大学 1 名減)。

上記連携大学を含む、すべての大学の連携・指定校制推薦枠にエントリーできたプレップ・一貫プレップコースの生徒数は 160 名で、同コース生徒の在籍数に対する割合で見ると 32.4%であった(昨年は 29.8%、一昨年 47.7%)。

②また、短期大学の合格者が 23 名(前年度 25 名)と横ばい、さらに専門学校の合格者は 29 名(前年度 65 名)と減少した。短期大学・専門学校合格者はともに共学化の後に顕著な増加が見られるが、共学 2 期生の専門学校志望は 1 期生に比して減少した。

③就職者は消防に 1 名、エステへの就職希望者が 1 名。(昨年は自衛官 5 名、大阪府職員 2 名。一般企業就職は 0 名であった。) 企業就職者がほとんど見られないのは本校の特徴。

3. 昨年度から実施している進路指導部の取り組みについて

④進学実績の更なる向上を目論み、以下のような事業を昨年度より推進中である。

①平成 26 年 6 月より、高 3 全コース生徒対象に「大学合格講座」をスタートさせた。

この講座は従来の補講習とは一線を画すもので、現職の予備校の講師先生を中心に「校内予備校」を学校内で運営するものである。業者の手を借りず本校独自で運営しており、

1 講座 70 分で 700 円とし、保護者負担を極力抑えるよう努力している。平日の放課後午後 5 時 15 分から午後 7 時 45 分まで 2 コマで開講した。

参考：1 学期申し込み人数延べ 265 人 (実 133 人 19.1%)

2 学期申し込み人数延べ 204 人 (実 95 人 13.6%)

②平成 27 年 1 月からは高 2 全コース生徒対象に「大学合格講座」を開講。

参考：3 学期申し込み人数延べ 465 人 (実 190 人 26.7%)

③平成 26 年度から、校内一斉で受験している「進研模試」の有効活用の方策として、教員・生徒ともに「進研デジタルサービス」の利用を開始した。このコンテンツで、模試の受験前に目標大学の設定を行い、模試を目的的に受験させたり、また模試の後には、やり直し学習をさせる等が可能である。担任は、その利用状況をネット上で管理し、個々の生徒にメッセージを送ることなども可能になる。本年度も更に利用普及をしたい。

④しばらく実施されていなかった、「進研模試」「スタディーサポートテスト」の結果分析会を、平成 26 年度から再開した。中学校においては「学力推移調査」分析会を実施した。生徒の学力・学習状況を把握し、今後の学力向上の手立てを考える上で有効である。今年度も年回 3 回を目標に実施予定である。

4. 今後の進路指導部の取り組みについて

◎上記に加えて、平成27年度以降は以下のような取り組みを始めている。

①平成27年度4月から、高3生徒には「大学合格講座」を、高2生徒対象には「大学合格準備講座」と銘打ち、2学年とも4月からスタートを切った。

②また、同4月より、中学3年生から高校3年生を対象に「英検対策講座」をスタートさせた。「4級・3級・準2級・2級」対策講座を土曜日の放課後に開講している。年間3回の英検受検機会に合わせて3期開講する。

③更に、本校のグローバル教育の一環として、英語ネイティブ講師の通年授業の試行を兼ねた「修学旅行英会話講座」を、高2生徒対象に土曜日放課後開講した。今後9月より、高校1年生対象にも同じ講座を開講する予定である。

④受験情報雑誌『蛍雪時代（旺文社）』月刊・増刊とも配布範囲の拡大をした。最新の受験情報をクラス担任の先生に直接届ける範囲を拡大し、生徒に対する進路指導力の向上を期待している。

⑤進路指導室前の資料コーナーの整備。大阪市立大学・大阪府立大学・関西大学・近畿大学の情報ブースを設置した。本校生徒にとっての人気大学であるこれら大学の情報量を増やすことで、受験者・合格者・合格率の増を期待したい。

⑥中1から高3までの全ての教室に「大学マップ」を掲示。また、校内数ヶ所にも掲示した。合わせて、ベネッセの「GTZ（学力到達ゾーン）」表を校内数ヶ所に掲示。「進路意識の醸成を図っている。

⑦進路指導室付近の壁面を利用して、大学入試までの日数および定期考査までの日数が確認できるようにプレートを設置した。（例「センター試験まであと〇〇日」）

以上のような取り組みを契機として、来春の更なる進学実績の向上を目指している。

iv 入試関係

決して安穩としていられない状況である。共学とアクセスと制服に助けられて集まっているといっても過言ではない。大阪府の就学支援が今後どうなるかわからないことを考えると2年先までにパワー、英数コース、プレップコースの再編をもう一度やり直さなければならないのかもしれない。シラバス等がホームページにアップされ、各コースの現役合格実績も含めて公開しなければならないことは必至であり、そのためにも学校側はシラバスの内容（これで希望の大学に合格できるのか）を詳細にチェックし、広報のあり方を再度、検討しなければならない。

さらに特待生制度のあり方を担当者の話を聞いていただき、再度検討していただきたい。上宮とほぼ同じレベルの近大付属高校のやり方とは歴然である。真似をする必要はないが、水をあけられるような制度になっている。

v 施設整備関係

本年度も建物の修繕・改修工事等を中心に事業を行なった。特に1号館に関しては空調更新工事、漏水改修工事、埋設の汚水配管等の改修工事を行なった。

また、7号館においては新たに生活指導部分室が設置されるに伴い、第二職員室の移動等もあり設備関係の改修工事を行ない、耐震診断を実施した。

女子トイレについては引き続きリースという形で継続を行う。(北東門駐輪場東側)

※主な工事

1、1号館空調更新工事 2、2号館屋上防水工事 3、1号館、5号館トイレ汚水配管改修工事及び通用門マンホール改修工事 4、7号館第二職員室手洗い設備設置工事及びウォータークーラー設置工事 5、1号館北西角外壁及び生徒通用門内通路屋根補修工事 6、総合体育館アリーナ扉レザ一補修工事 7、女子トイレ仮設リース

vi 教務関係

① 教学関係

内規改定による卒業・進級の厳格化

従来の本校の卒業・進級に関する内規の規定の内、成績に関する規定と出席に関する規定を比較すると、近年見直しを進めてきた成績に関する規定をさらに厳格化し、従来、評定1(5点法)が2科目までなら、卒業・進級判定会議の議によっては救済措置の道が開けていたものを、1科目のみなら救済措置の可能性があるとし、反対に2科目以上ならば、原級留め置きとなることとし、決定後直ちに生徒保護者に周知した。

結果として、26年度の卒業・進級判定会議に審議対象となる生徒は減少し、下位層の成績向上に直結する結果となった。高校受験における受験生の相対的な学力上昇と学業に対する積極的な姿勢の入学生の増加と相まって、よりよい学風が形成されつつあると思う。

② 受験対策

近年、他校でも取り組みが多い校内予備校への取り組みとして、3年生対象の大学合格講座を2学期から、2年生対象の大学合格準備講座を3学期から始めた。講師は本校勤務の講師の中で予備校との兼任の先生方と予備校の講師の先生方からなり、平日午後5時15分の終業後に2時限ずつの時間割配当で、有料講習をおこなうものであり、生徒保護者からも大きな反響があり、実際の大学入試結果に好影響を与えたと考えられ、27年度はさらに内容の充実を図っていくこととしている。

③ 語学研修

25年度までの状況は、高1・2年対象の夏休みのカナダ語学研修とイギリス語学研修の2種類がほぼ同時期に企画されていた。カナダ語学研修は3コースに分かれるが、1~2名程度がレジデンス(寮)での宿泊、その他大半の20名程度がホームステイで毎日教室に通学するもので、定員をオーバーするほど好評である。また、学校ではオープンといわれる各国の生徒と一緒にの教室での学習である。それに対してイギリス語学研修は全員レジデンス(寮)で、部屋も教室もオープンで様々な国の生徒と共同生活を行うもので、実際の参加者には好評であるが、希望者が少なく、25年度は実施中

止となり、26年度からは募集停止となった。

イギリス語学研修に替わって、26年度新たに企画したのが、フィリピンのセブ島の日系語学学校に滞在する英語研修である。英語の学習とアクティビティや自由時間といったこれまでの語学研修と異なり、原則外出室禁止で午前中はマンツーマンでの英語特訓という特徴があり、英語力の強化に特化した研修である。生徒にとっては参加を決断するのにハードルが高く、参加者は2名に止まったが、帰国後の感想極めて好印象で、セブ島語学研修自体マスコミの報道が増えており、27年度も実施が決定している。

春休みには、中3と高1対象にオーストラリア語学研修を実施している。全員がホームステイで滞在し、英語学習は本校生徒のみのクローズで行われている。アクティビティが充実しておりオーストラリアの大自然とふれあうプログラムで英語環境に親しむことを目的としている。

④ 学校計画の策定

平成26年度から学校計画を策定している。「建学の精神」「学校目標」「中期目標」「今年度目標」の項目に分け、上宮中学校・高等学校の学校方針を明確化した。この学校計画をもとに各学年・各分掌・各教科が自らの部門で必要とされる重点目標を策定して学校評価に結びつけ、さらに各教員は学校計画と学校評価に関連して個人目標シートに結びつける。学校評価の充実には組織力の向上を、個人目標シートの充実には教育力の向上に結びつく。

⑤ 教育プランの策定

平成26年度から教科の教育プランとコースの教育プランを策定している。各教科における教科指導上の目標達成と意思の疎通を図る。コースにおいてはコースの特性を共通認識し、3年後および6年後の目標に向かっての指導を進める指標とする。

⑥ シラバスの策定

平成26年度から、教科およびコースの教育プランをもとに、教科およびコースのシラバスを策定した。シラバスは生徒・保護者および外部に対して公表するものであり、上宮中学・高等学校の教育内容はホームページにあげて公開と広報を行った。

⑦ いじめ防止基本方針の作成

いじめ防止基本方針の作成といじめ対策委員会の設置を行った。

いじめ防止基本方針は、平成26年3月20日公布、4月1日施行であり、ホームページに記載した。

vii 課外活動関係

- ・クリケット 梅谷 日本代表選出
- ・卓球部 インターハイ・選抜大会 出場
- ・ソフトテニス インターハイ・選抜大会 出場
- ・フェンシング インターハイ 出場

3. 上宮太子高等学校

i 執行部関係

校 長	齊藤 善之	中学教務部長	甲斐 龍二
高校教頭	寺澤 久弥	生徒指導部長	佐々木裕司
中学教頭	甲斐 龍二	進路指導部長	松井 清吾
高校教務部長	淵 昭嘉	入試対策部長	木戸 俊治

ii 広報関係

① 学校説明会

オープンキャンパス	9/20	参加者数	0223 名
第 1 回入試説明会	10/05	参加者数	48 組 092 名
第 2 回入試説明会	11/09	参加者数	142 組 253 名
第 3 回入試説明会	12/06	参加者数	194 組 362 名
学校見学会	12/13	参加者数	126 組 223 名

② 塾対象説明会 7/17、18 参加者数 145 塾 168 名

③ 私学展（OMMビル） 8/16、17 参加者数 166 名

④ 特筆すべき点

学校説明会においては、多くの受験生・保護者の方に参加頂いた。昨年よりも参加人数は減少したが、私学展や説明会後の個別相談での人数は増加した。個別相談では一組一組により詳しく丁寧に対応することを心掛けた。おかげで保護者や受験生がより一層上宮太子に興味を抱かれ、安心して受験していただいと思われる。おかげで受験への定着率は上昇し、過去最高を記録した昨年とほぼ同様の受験生数となった。

iii 進路関係

【大学合格者数】

卒業生数が 100 名程増加したことに伴い、全体の合格者数も 100 名程増加した。

今年度のべ 375 名（卒業生数 242 名）、昨年度のべ 273 名（卒業生数 141 名）

○国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格者数に大きな変化はない。

国公立大学合格者数：

今年度 7 名（現役 6 名・過年度 1 名）、昨年度 8 名（現役 4 名・過年度 4 名）

○私立大学（関西 8 私大）

昨年度入試と比較して、関関同立の合格者数は約 10 名、産近甲龍の合格者数も約 10 名減少した。その結果、関西 8 私大合わせた合格者数は約 20 名の大幅な減少となった。

今春の卒業生の特徴として、年内に進学先を確定させたいとの思いから、安全志向で

受験する傾向が強く出た。

関西 8 私大合格者数

今年度 59 名（関西 8 名・関学 1 名・同志社 3 名・

京産 3 名・近畿 28 名・龍谷 16 名）

昨年度 79 名（関西 21 名・関学 1 名・同志社 1 名・近畿 37 名・龍谷 19 名）

※昨年度と比較して、

連携・指定校推薦入試受験者数 1 名増加。

昨年度は関関同立・産近甲龍合わせて、連携・指定校推薦入試受験者数 19 名

○25 期生の進学状況（卒業生数 242 名）

4 年制（6 年制）大学進学者数…201 名 短期大学・短期大学部進学者数…8 名

専門学校進学者数…18 名 就職者数…6 名 留学者数…1 名 進路未決定…8 名

（内訳：総合進学文系 1 名、総合進学理系 4 名、特進文系 2 名、特進理系 1 名）

現役進学率 96.6%（昨年度 92.1%）、現役合格率 97.5%（昨年度 93.6%）

連携・指定校推薦入試受験者数 43 名（総合進学コース在籍者の 17.8%）

総合進学コース在籍生徒のうち、

1 名（実数）が関西大学に一般入試で合格。

1 名（実数）が京都産業大学に一般入試で合格。

4 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導 LHR（年間 8 回実施）を通して、大学・学部・学科について調べ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースの生徒にも、公募制推薦入試や一般入試を中心に大学進学を目指させるように指導する。

生徒の将来とともに、学校の将来を見据えた取り組みを今後も継続して行っていきたい。

○次年度の取り組む内容（重点目標）

- ・安易な考えによる AO、連携・指定校推薦入試からの脱却（総合進学の 30%未滿）
- ・大学入試センター試験に対する意識の向上（受験者数の増加）
- ・模擬試験の有効活用（偏差値 2 ポイントアップ）
- ・家庭学習の充実（補習・講習の充実・家庭学習時間の増加）
- ・女子生徒の希望進路を見据えたカリキュラムについて検討
- ・学力のともなった理系選択者数の増加
- ・6 ヶ年教育を活かした大学情報の発信

iv 入試関係

「共学」として募集を開始してから、受験者数も大幅に増えた。共学化も地域に認知されつつあり、受験生の女子比率も年々増加している。今年度の入試は昨年に比べ合否ラインが高くなった。受験生の全体的な成績も上昇傾向にある。安定した学力をもつ受験生が増えてきていると感じた入試となった。

v 施設整備関係

グラウンドの改修工事、PC 教室のリニューアルを始め、共学化による生徒数の増加にさらに対応するための教室整備、及び校舎、設備の維持管理のための補修改修を行った。

- ・グラウンド改修工事（冬季の凍結予防、表層の小石撤去、乾燥の防止）
- ・中学校舎視聴覚教室→PC 教室へのリニューアル
- ・旧進路指導室、PC 教室→普通教室への改修
- ・防犯カメラ増設工事

vi 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4 月までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10 月末までに中間評価、3 月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言を頂く形で実施した。授業アンケートについては、6 月に第 1 回目を実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、11 月に実施した 2 回目の授業アンケートに反映させるように行った。平成 25 年度の学校関係者評価委員会は例年通り 6 月に実施した。

② 高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪樟蔭女子大学の 5 大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また、近畿大学経済学部にて、数学のリメディアル教育担当教員を 1 名派遣している。

○今後について

共学化に伴い、いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ、本校としても長期間にわたり、責任のある関係を保つことができる大学に絞って、今後の高大連携を考える。

発表を通してたくさんの生徒、来校者に協力していただいている。

③ 教職員研修会

昨今の私学を取り巻く厳しい環境のなかで、私立学校として、法然上人の仏教精神に基づく『建学の精神』を掲げる上宮太子中学校・高等学校。そこで日々働く教職員が、「意識

の改革レベルの向上」・「私学人としての現状認識と共通理解の醸成」・「他校の情報収集と対策の研究」等を目的に、機会を求めて共に研鑽を積むことを重ねている。教職員としてのまとまりと、また、一人ひとりが「生徒・保護者のため」・「所属する職場組織のため」何が出来るか、どのように貢献できるかという視点で、平成 26 年度は、前年度に続いて、各学期 1 回、年度間に計 3 回、全教職員を対象に、外部講師を招いて教職員研修を実施した。教職員の技量・モチベーション向上と研究心の錬磨に繋げている。

<1 学期・7 月 10 日>

- ・テーマ「クレーム初期対応と怒りのマネジメント」

(学校での危機や不祥事の発生防止および発生時の対応)

講師：学校リスクマネジメント 西嶋 健二氏

<2 学期・12 月 10 日>

- ・テーマ「生徒の心のマネジメント」

(生徒の生活力を高めるための教師としての関わり方)

講師：日本アングマネジメント協会 高橋 直子氏

<3 学期・3 月 6 日>

- ・テーマ「『授業力』で学校を元気にする原理原則」

(学びのキモチ・カタチ・ナカミとそれを支える「担任力」)

講師：エデュケーショナルネットワーク 光延 栄治氏

④ 特筆すべき行事

・【海外語学研修】

<オーストラリア語学研修> 3 月末実施 対象学年 中 2～高 2 希望制

語学力の向上および多文化理解を目的としたホームステイ型の研修。

実習期間は 2 週間で、生徒満足度 95%と非常に高く、その結果、リピート率も高い。

(平成 26 年度 参加者 13 名)

<イギリス語学研修 (ACEプログラム)> 7 月中旬実施 対象学年 中 3～高 3 資格あり

国際感覚の習得、プレゼンテーションスキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。

参加資格は英検 2 級 1 次試験合格以上。クリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加前には 10 時間以上のネイティブ講習会等を実施する。

(平成 26 年度 参加者 7 名)

・【聖徳書道展】

平成 26 年度で第 7 回の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化の発展と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、浄土宗、太子町・太子町

教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、小中高生および一般の方々から 5000 点を越える応募作品を得て、10 月 12 日（日）・13 日（月・祝）両日に、上宮太子高等学校を会場として、入賞・入選作品を掲示、他の作品も展示し、第 2 日には入賞作品の表彰式も行われる。毎年、家族連れ等、多くの来校者を迎え、結果、学園・学校を広く知らしめる契機となっている。

vii 課外活動関係（優秀な部活動の結果を紹介。同好会の発足や、昇格も記入）

① 課外活動のあり方について

運動部：11、文化部：10、同好会：3（平成 27 年 3 月末現在）

中高で 7 割近くの生徒がクラブに所属し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切に、礼儀や挨拶などを含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化をねらいとしている。

② 新規クラブ発足等の動きについて

平成 26 年 1 月 剣道同好会発足 平成 27 年 4 月 部昇格
平成 26 年 4 月 女子サッカー同好会発足
平成 26 年 9 月 家庭科同好会発足 平成 27 年 4 月 部昇格
平成 27 年 4 月 女子硬式テニス部 硬式テニス部から独立
平成 27 年 4 月 囲碁将棋部 休部

viii 防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になってきました。そのため、学校側は、生徒が最低 2 日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供など、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

（備蓄品内容 一人分）

朝食パン 2 日分 昼・夜 アルファ米 2 日分 飲料水 500ml 6 本
ミルクビスケット・クラッカー 保存用水 20 900 本 レスキューシート

（救助・救命 KIT）

高校校舎 1 セット 中学校舎 1 セット

ix その他

① 生徒会活動の一環として、上宮祭における献血活動に力を入れている。日赤より講師を招き、全生徒に対して献血に関する事前学習を行い、上宮祭当日まで呼びかけや、研究発表を通してたくさんの生徒、来校者に協力していただいている。

4. 上宮中学校

i 広報関係

① 学校説明会

入学希望者を対象に9月から月に一度、11月まで説明会を実施している。説明会のスタイルは高校とほぼ変わらないが、平成25年度から体験学習会を6月、プレテストを11月に実施している。体験学習会の6月実施で興味関心を持った生徒が塾の夏の夏期講習に参加し、11月のプレテストを受験し、最終的に上宮受験という流れを狙っている。

② 塾対象説明会

高校と内容は同じ

③ 私学展

高校と内容は同じ

④ 特筆すべき点

⑤ 特に留意すべき点は近畿圏にある私立中学校の入試レベルが二極化しており、全体的なレベルが下がっているという事実と受験の可能性のある児童数が激減しているにもかかわらず、中学生の募集をする学校数はさほど変化がないというこの2点である。

上宮中学校の立ち位置はレベル的に言えば特進で偏差値50ほど、アップコースで45と言っているが、偏差値が50あるならば、明星・清風・大阪女学院に十分合格できる（40台でも合格する可能性は高くなっている）。その結果、大阪府内の私立中学校の3分の1の学校が定員を満たせなくなった。現実を捉え、このような状況の中で中学入試でアピールするためには、中学校の内部の教務力や何らかの柱を新たに構築する必要があると思われる。またそれらを前面に押し出すことが生徒募集につながるわけであるが、もし何らかの柱を立てることができない場合、太子中学校も含め学園の中学校は存続すら危ぶまれると思われる。

⑥ 入試結果について、上向いている点は小規模の個人塾からの入学生徒が増えているという点。今までは大手塾を中心に、上宮を受験してもらうようお願いするというスタンスであったが、大手塾に頼れない以上、これからは「受験生を作る」、上宮を受験する生徒を塾に紹介して、勉強を教えてもらい、上宮への受験を勧めてもらい、入学後もその塾に通うという新たな関係を築いていかなければならない。

また、特待生制度については現状ではまったく機能していないと言える。特待生で入学した生徒をどうこう言っているのではなく、募集のシステムが現実に即していない。担当者の声を聴いていただき、制度の変更あるいは廃止も含めて検討していただきたい。

ii 入試関係

平成26年度に比べ平成27年度入試は、総受験者数が49名減の217名（女子受験者数は21名減の40名）、入学者は1名減の110名であった。生徒数の確保という観点からは比較的生徒を集めたが、問題は女子入学者が29名から20名に減少した点である。3クラスで20名という結果は、今後の入試に影響を与えそうである。女子生徒の募集に関する新たな工夫が必要である。

また、クラブ関係の特技推薦の制度（特待生制度含む）については現状のままでは問題がある。平

成 27 年度入試ではアップコース合格点に満たない生徒の入学はなかったが、これまでの入学者の中には、授業について行きにくい生徒や生活指導上に問題がある生徒の割合が高いことがあった。10 年前は 6 クラス編成で特技者のクラスもあったが、現在では特技者のクラスがなく、3 クラス編成である。アップコース合格点に満たない生徒の入学は今後も避けなければならない。また、特待生制度の変更については検討していく必要があると思われる。

iii 教務関係

(1) 学校評価

- ① 行事の計画と実行・改善
- ② 中学から高校へスムーズに進学できるための方策の検討
- ③ 教務係との業務の連携、運営
- ⑥ 教員間の情報の共有・連携
- ⑦ 中高教務の連携
- ⑧ 会議や連絡会について
- ⑨ 教務会の円滑な進行について
- ⑩ コース再編の目標の明確化、中学校での取り組みの具体化

(総括)

以上の目標については、概ね当初の予定通り遂行できたが、②と⑨が最大の課題目標であり、継続審議が必要となっている。中学入試の学力レベルと高校入試の学力レベルの乖離が進み、中高連結では難点が多い。中学のアップコースが 2 クラスを維持し、将来的に単独で高校の 6 カ年プレップコースを文理 2 クラスとして継続できるかどうか。また、高 3 に進んだ特進コースが、学力面や人数の面においてパワーコースとスムーズに合体できるかも問題である。中学 3 年間で学力向上にはかなりの工夫と多大な労力が必要であることから、これらを解決することは重要な課題である。

同時に、本校が六カ年一貫の学校として、特長ある教育を標榜できるような具体策の検討が急務となっている。

(2) 勉強合宿

- ① 中 1 が 5 月に行う勉強合宿 (1 泊 2 日) は平成 24 年度から実施しているが、小学校から中学に入学して早々に定期考査に向けての学習方法を示すことは意義があり、今後も継続予定である。
- ② 中 1、中 2 の特進コースが行う夏期勉強合宿 (2 泊 3 日) は 5 年目となった。自学自習が早くから定着することと、特進コースとして将来の進学に自覚を持たせる目的がある。
- ③ H26 年度の中 3 勉強合宿 (2 泊 3 日) は、平成 25 年度の反省を生かし、2 月に実施した。H27 年度も 2 月に実施する予定である。

(3) 中 3 修学旅行

9 月末に九州方面 4 泊 5 日であるが、平成 26 年度はエージェントをトップツアーに代え、長崎県を中心に実施した。ハウステンボスでの街頭英語、佐世保の米軍家庭におけるアメリカンホームステイなどの異文化交流および、南島島原おける農家民泊、長崎市内における班別自主研修を実施

し、好評であった。

(4) スキー実習

中1、中2は全員志賀高原スキー場にて3泊4日で実施。雪質もよく、宿舎でインストラクターの話の聞けるなど、生徒の満足度も高かった。また、中3生は高1生と合同の希望制で12月末に北海道でのスキー実習を実施した。

(5) 英語コミュニケーション講座

各学期末に行う全学年対象希望制の行事で、ベルリッツからネイティブを招いて実施。最近は生徒数の減少もあり、学年混合の形態もある。

(6) 中3生対象のオーストラリア語学研修

3月末から4月初旬にかけての12日間。ケアンズにおけるホームステイを中心に、午前中は語学学校、午後はアクティビティからなる研修で、参加者からは好評を得ている。

(7) 中3生対象のイングリッシュキャンプ

例年、中3生は8月にイングリッシュキャンプ（ネイティブと過ごす2泊3日）を実施していたが、平成26年度は8月に中3特進中心の希望制勉強合宿をしたことから人数が集まらず、催行できなかった。平成27年度はこの反省をもとに両行事の検討を行う。

(8) 上記以外の行事

① 中1：5月に冒険教育（日帰り）を実施

② 中2：6月に琵琶湖合宿（1泊2日）を実施

10月に思春期教室（バルナバ病院で実施）を実施

3月に調理実習（キャリナリー製菓専門学校）を実施

③ 各学年主導の校外学習

1年：司馬遼太郎記念館、上町台地散策

2年：神戸班別自主研修

iv 課外活動関係

◎柔道部

近畿大会 団体 出場 全国大会 団体 リーグ戦敗退

◎ソフトボール部

全国大会 全日本中学生男女ソフトボール大会 出場

◎ソフトテニス部

全国大会 団体優勝 個人 中3 上岡・広岡 準優勝

◎卓球

近畿大会 個人 中3 皆川 準優勝 中2 西 5位 岸田 6位

全国大会 個人 中3 皆川 ベスト32 中2 西 ベスト64

③ 教職員研修会

上宮太子高等学校と同内容

④ 特筆すべき行事

海外語学研修・聖徳書道展については上宮太子高等学校と同内容

学習強化合宿

中1学年 7月下旬（終業式後）に2泊3日の日程で合宿を実施（京都方面）

法然上人が修業された比叡山黒谷清竜寺を参拝、京都市内の宿所に入り一枚起請文・英単語等の暗記に取り組む。また、合宿後の家庭学習の習慣を身に付けさせる。

中2学年 7月下旬（終業式後）に2泊3日の日程で合宿を実施（和歌山方面）

枕草子・英単語の暗記に取り組み、かつ合宿独自の授業を展開する。魚つかみ、備長炭の風鈴づくり、梅干しづくり等の体験学習を実施。家庭学習習慣を定着させる。

中3学年 7月下旬（終業式後）に3泊4日の日程で合宿を実施（奈良方面）

英数国を中心に高校での学習を念頭に置いた合宿独自の授業を展開する。家庭学習習慣を定着させる。

その他

早朝テスト 朝礼時に実施することにより、授業への姿勢を整えさせ、学習習慣の定着をはかる。

外部模試 全国的なレベルでの成績の比較

特別考査 日頃の学習の成果を見極め、校内での実力を確認する。

漢字検定試験 中学卒業までに2級合格を目標。

英語検定試験 中学卒業までに3級合格を目標。

英検講習 学年枠を越えた級別講習を、通常の補習・講習に加えて、検定日前に集中実施。

授業内小テスト・個別指導・添削指導など教科の特性を加味した指導を実施。

職員室前に質問コーナーを設け、生徒がいつでも質問しやすい環境づくりを設定。

学校行事

普段の教室での“知性を磨く”学習とは違った形で学び、違った環境の中で「感激・感動」を味わって、“感性を磨く”学習としての学校行事。普段、「吸収」した知識を、いかにうまく「発揮」していくかに繋がります。“交流”“体験”“手づくり”を重視した修学旅行・文化祭（本校では上宮祭）・体育大会の他、独自の行事も実施。

祖山参拝	浄土宗の総本山である知恩院へ新入生が入学の報告
御忌式	校祖法然上人のご命日に当たる毎月 25 日の第 1 限に学校長より法話
校祖誕生会	校祖法然上人のお誕生の日に式典と講話
正当御忌式	1 月 25 日の校祖法然上人の祥月命日に式典と講話
新入生オリエンテーション合宿	1 泊 2 日 京都大本山百万遍知恩 仲間づくりと宗教体験を目標とする。
修学旅行	(九州方面) 立命館アジア太平洋大学での国際交流 長崎県五島列島の小値賀島での民泊体験
球技大会	生徒会起案で実施 生徒の自主性を養う。
体育大会	6 学年縦割りの色別対抗 学年枠を越えて先輩・後輩の関係性の確立。
上宮祭	研究発表など多彩なクラス参加、または文化部の催し物を実施。
夏期学習強化合宿	中 1・中 2 は 2 泊 3 日、中 3 は 3 泊 4 日で実施
芸術鑑賞	音楽、古典芸能、ミュージカル等「ホンモノ」の芸術に触れ、感性を磨くことを目的とする。

0 校外学習（二上山・葛城山・金剛山登山）

3 学年縦割り（体育大会時の色別チーム）で協力して頂上をめざし、最後まであきらめない忍耐力と協調性を高める。

3 年間で三山に挑戦する。（本年は金剛山）

iv 課外活動関係

上宮太子高等学校と同内容

v その他

特記事項なし